

ては食多し、農人の食てよき稻也、第一日損少して虫喰ず、風こぼれにあふ事又餘にすぐれたり、是のみにて其外こなしに手間不入能事あまた有稻也、右の稻數合九十六色、たれとても不殘つくるにはあらざれども、それ〴〵の田地相應の所を用るにより、村々里々にあり、何稻にもかぎらず、數年よく耕糞よくしたる田地に、能時分を積りて作れば實入吉、太米田地をきはすといへども、よき土には實多し、

〔土佐國水土私考〕土佐國粳米有早中晚之收、各處種類甚多、氣味不能無少異矣、出于幡多郡者呼名晚實、最爲下品、一種大唐米、通國呼名太米、蓋此種中古自西土來乎、故得此名、或說以秬米充此物、與本艸所言多胎合之、此物比諸粳則氣味淡薄、故常食而有太益、嘗聞斯地產斯人、則天必生穀食、以遂其性命、得之則生、不得則死、然則太米之產於此州、卽此州萬民之天也、世之士夫或謂卑賤之食而愧常食之、其亦不懼天乎、

〔毛吹草三〕土佐太米餅タイタウモチ白米ナリ

肥前シロダイタウ白太米アケダイタウ日向大隅薩摩三箇國作之

〔農術鑑正記上〕大唐稻は、昔は肥前の白大唐、日向の赤大唐とて名物也、今諸國に多く作る、

〔紀伊續風土記物産二〕秬タイタウ本コノ草

牟婁郡處々より出づ、方言キアカと呼ぶ者、赤秬米なり、

大人米
コビトジマ

〔重修本草綱目啓蒙麻十七〕粳コビト增、一種オホイネト云モノアリ、苗ノ形尋常ノ者ニ同クシテ、高サ八九尺ニモ及ブ、米粒ノ大サ常

米ニ倍ス、中粳ナリ、近年種ヲ傳テ處處ニ栽ユ、卽集解時珍ノ說ニ、眞臘有水稻高丈許ト云、又留青日札ニ、供大人米ノ名アリ、曰摩揭陀國有異稻巨粒號曰供大人米ト云是也、又一種コビトジマト稱スルモノアリ、形狀尋常ノ者ニ似テ、水田ニ培養スルトモ、僅ニ七八寸ニ過ギズ、其實大サ胡麻ノ如シ、近年種ヲ傳テ益ニ栽テ愛玩ス、

〔兔園小説十集〕鶴の稻

輪池